

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (47)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

今回は(1)で最初に tweet 文を提示するのではなく若干趣向を変えてみる。(2)はやはり時間をさかのぼる形になるが何かと過去を見ることで現在がよく分かってもらう。この(2)を2言語並行の効用を確認する目的も含めスペイン語翻訳版でも見てみる。本連載では音声面から Trump 氏の特異な paralanguage (パラ言語) を常に意識してもいる。

(1) Trump 氏は下の tweet の投稿前に、次のような思いが心の中にあったわけである。

「今、大統領専用機に乗り込んだが、つい先ほどはホワイトハウスにいた、機内の隣の席には妻のメラニアが座っている、日本へ向かっている、友人の安倍首相と貿易と軍事問題の話しをする、合わせて今回は天皇との会見となるが、米国を代表しての新天皇との会見は光栄だ」。こういうことが頭の中で encode 化 (符号化) され次の英文 tweet となった[最初の行で原文は I がなく... and am now であったが、ここでは入れておく]。

Departed the @WhiteHouse and I am now on Air Force One with the First Lady heading to Japan and looking forward to honoring, on behalf of the United States, His Majesty, the Emperor of Japan. I will also be discussing Trade and Military with my friend, Prime Minister @AbeShinzo. (May 24, 2019)

▲何かを言いたいとき一般にとっさに頭にひらめく語は下の仮称 MSOE [émsou]画面上で見るように **3 ± α 語** と考えてよい。それ以上はまだ語の形では整理されてはいなく、次のレベルで一定の pattern recognition (パターン認知) に基づく語整序(word ordering)となる。

上の文の背景には自分の<現在の位置づけ(AT)>、すなわち I am here in the plane [on Air Force One]. を軸に、<過去の位置づけ(TO)>としての I was there in the White House、そしてさらに<未来の位置づけ(TO)>である I will be there in Japan. がある。

これは図形的には <TO> (-) ←---- <AT>----→ (+) <TO> の力と方向を背景にもつ意味ベクトルで示されるいわゆる deixis (直示法) の状況である。この基本的な deixis からさまざまな形式で表層英語文が大量生産される。つづいてこのあと Trump 氏は機内で次の2つの tweets を投稿したが、やはりともに広義の deixis の例と言える。

- In Alaska with our GREAT TROOPS, departing shortly for Japan ! (May 24, 2019)
- Getting ready to land in Japan with First Lady Melania. We look forward to seeing everyone soon ! (May 25, 2019)

最初のものは日本への途中で一時アラスカに着陸したようで、そこでの駐屯兵士たちと写真撮影をした。その写真はネット上にも掲載された。次のものでは移動中に日付も変わり、「そろそろ妻メラニアとともに日本上陸だ」と言っている。

次に(1)の文を decode 化 (復号化) し MSOE 輪転機で回転させ動的に確認してみる。

STATEMENT			
		THEME: NP	RHEME : VP

STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	φ	Departed	the @WhiteHouse (/)	φ
2	and	I	am now	φ	on Air Force One
3	φ	φ	φ	φ	with the First Lady
4	φ	φ	heading	φ	to Japan /
5	and	φ	looking forward	φ	φ
6	to	φ	honoring,	φ	on behalf of the United States,
7	φ	φ	φ	His Majesty, the Emperor of Japan. //	φ
1	φ	I	will also be discussing	Trade and Military /	with my friend, Prime Minister @ AbeShinzo. //

(備考) 単一斜線 (／) は各文での意味的 2 分割線。

最初の文の STR (文層) が 7 層で深い。しかし実際には and による重文で特に負荷はかからない。honoring の後ろに挿入句 on behalf of the United States が割って入るため、この honoring と後の His Majesty, the Emperor of Japan が語結合(linkage)するところにつまづきがちになるが、こういう場合の流れに慣れたい。

下線とした heading to の to (～へ向かっている) は heading for (～方面へ向かっている) と違い、ベクトル上の明確な終点を示す言い方である。また、下線の His Majesty(,) the Emperor (天皇陛下) に対し、「皇后陛下」は Her Majesty(,) the Empress、「天皇・皇后両陛下」は Their Majesties(,) the Emperor and Empress となる。Emperor, Empress ばかりでなく King, Queen の場合も同様であるが、呼びかけの場合は Your Majesty, Your Majesties である。なお、「閣下」の意味で His Excellency, Her Excellency, Their Excellencies もある。この呼びかけは Your Excellency, Your Excellencies である。いずれも呼びかけの人称は 2 人称ではなく、3 人称扱いとなる。このあたりはやはりラテン系ロマンス言語スペイン語で日常的に用いられる丁寧語が単数形 usted (<vuestra merced) = your *mercy* [*honor*]、複数形 ustedes (<vuestras Mercedes) = your *mercies* [*honors*] と 2 人称ではなく 3 人称扱いとなることと合わせて考えるとよい。ただし、President (大統領) に対する男女別呼びかけは Mr. President または Madam President であり 2 人称扱いである。やはり President には民主的なものを感じる。

太線語 discussing の[kʌs]の音から「揺(ゆ)すること、叩くこと」の意味を感じ取りたい。Basic 語 **discussion**、un-Basic 語 percussion (衝撃・打楽器演奏)、concussion (衝撃・脳震とう) などの同系語がある。なお、discus [dɪskəs] (円盤) は disk (円盤)、dish (大皿・料理) などと同系で、「投げ込むこと」が原義の語であり別系統。

[以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05)より — 2 言語対照]

(2) Actually, throughout my life, my two greatest assets have been mental stability and being, like, really smart. Crooked Hillary Clinton also played these cards very hard and, as everyone knows, went down in flames. I went from VERY successful businessman, to top T.V. Star to President of the United States (on my first try). I think that would qualify as not smart, but genius ... and a very stable genius at that ! (January 6, 2018)

cf. De hecho, en toda mi vida, mis dos grandes activos han sido la estabilidad mental y ser, vaya, muy inteligente. La Corrupta Hillary Clinton también jugó estas cartas muy fuerte y, como todos saben, no le funcionó. Pasé de MUY exitoso hombre de negocios a Estrella de TV a Presidente de los Estados Unidos (en mi primer intento). Creo que eso calificaría no como inteligente, sino como genio ... ¡ y un genio muy estable para eso ! (6 de enero, 2018)

▲これは大変な反響のあった tweet で、Trump 氏らしい自画自賛(self-praise)の極めつけと言えよう。こういうことを言う一国の大統領と彼の英文に注目する人は多いはず。

「生まれて以来、自分には2つの大きなとりえがあり、それは強固な精神と知性だ、ねじれ曲がったヒラリー・クリントンもこれを求めたが失敗に帰したことは誰もが知るところだ、自分は大変成功したビジネスマン、テレビタレント、さらに1回だけの挑戦で米国大統領になった、思うにこれは知性があるというより天才であり、しかも確固たる天才ということだ！」という内容で、実際に発話している響きも感じられる。

彼はいわゆる *genius* (天才) などではなく平凡ではない人物ということで、英語では *phenomenon* (異才) と言うべきであろう。Trump is a phenomenon, not a genius. ということ。その点では憑(と)りつかれたように書き物を通し Basic 言語を教えようとした C.K. Ogden も同じで「天才」ではない。神から生まれながらに授かった能力をもつ天才なら元々大したことはない。C. K. Ogden was a phenomenon, not a genius.なのである。

太線語 *assets* (資産・財産) はプラス α Basic 語であり *assets* とイタリック体ともしておくが、-set-には「十分さ、たっぷりさ」の感じがある。*satisfy* (満足する) と同系となるが、実は Basic 語 **sad** と同系である点には注目されてよい。「満足さ」はしばしば「うんざりし、もう十分だ」という負の気持ちにもつながる。

太線語 *stability* は **stable** (安定した) がプラス α Basic 語で、[stə], [steɪ], [stæ], [ste], [stil], [sto] ... と響く音から「立つこと」の意味を感じ取りたい。印欧祖語の語根 PIE etymon の音素形は/STA/で、Basic 語 **stage, station** など、un-Basic 語 *stationery* (文房具) など多くの同系語がある。*stationery* と関連し *stationer* (文房具店) は元来はちよっと立ち寄る「本屋」の意味であった〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(62)参照〕。

太線語 *genius* は本連載(43)で見た Basic 語 **general, engine** などと同系語で、PIE etymon は/GEN/とされ、原義は「種(たね)が生まれ出ること」である。[dʒel], [dʒil], [dʒi:], [dʒə] ... と響く音が一般にこの意味をもつ〔同上拙著、第二部、例(49)参照〕。

さらに、文中の下線部 *from ... , to ... to* の経路(path)の指示表現に注目しておくべきで、本連載(7)の②でも扱っておいた。また、末尾の *at that* は「しかも」の意味で強意。

cf. のスペイン語のほうでの *toda, vida, grandes, activos, estabilidad, mental, inteligente, corrupta, cartas, fuerte, funcionó (< funcionar), pasó (< pasar), negocios, primer, intento, calificaría (< calificar), genio* などは、対応するそれぞれ英語 *total, life, great, assets, stability, mental, intelligent, corrupt, cards, force, function, pass, business, primary, intention, qualify, genius* など〔太字体は Basic 語、イタリック体

はプラス α Basic 語] が同系語として簡単に導き出せる。両語がまるで単なる語の置き換えであり、発想そのものは同じであることが確認できる。

西洋語間の通訳はやはり簡単であろう。通訳者は通訳ブースの中でリラックスした状態でも仕事ができる。編み物などをしながらの女性通訳者もいるなどと聞いたことがあるが、発想(frame of reference)が同じで語の置き換えだけならそれも可能なはずとなる。

日本人にとっては母国語であり熟知している日本語を介し、何かと英語を対比で追究するのが手早く要領がよい。世の中にはいろいろな専門・プロ職人がいるが、日本語 $\leftrightarrow$ 英語の通訳者(interpreter)や日英語の対照研究(contrastive studies of English and Japanese)を専門とする大学の研究者などは日常的に両言語間のさまざまな問題の原体験者ということになる。本連載(29)でも触れたことで、日本での英語修得は諸般の事情を考えれば基本的には伝統的な方法が穏当で無理がないが、さらに若干の工夫をすることとなる。いずれにせよ、最終的には学ぶ側の志(こころざし)以外の何もない。

なお、Basic と関わる対照研究では一般の English から Basic $\Rightarrow$ (English $\Rightarrow$ Basic) とは別に、Basic から English (Basic $\Rightarrow$ English) $\rightarrow$ という発想の転換で考える手法もある。筆者自身が日常的に Cambridge Univ. 版の旧約・新約聖書 BBE (*The Bible in Basic English*) と他の一般の English 訳聖書との対照・比較・並行読みで試みている手法である。前回、BBE に関し触れたがこれは有益で元々は Basic $\leftrightarrow$ English の相互関係に注目するわけではあるが、すべて 850⁺ 語の Basic で言える内容のものが一般の English となるとどのような語(words)が Basic の基準からすれば贅沢(ぜいたく)に用いられ、どのような言い回し方(wording)となるかを並行読みで確認していく手法となる。

さらには英語以外のスペイン語など他の西洋言語訳による聖書も同時に並行読みで取り込むと、Basic も英語もスペイン語も同時に手早く修得できる。テーマは同じところがポイントで、それを比較・対照していくわけである。

付け加えておくと、EP 本 (I-III) でのテーマは独習での哲学的思索に向いているが、中世の時代に西洋の大学に 7 つの教養科目(liberal arts)が設定されそれが重んじられ今日に至っていて、この中世の 7 つの科目 [文法(grammar)・論理学(logic)・修辞学(rhetoric)・算術(arithmetic)・幾何学(geometry)・天文学(astrology)・音楽(music)] との関わりは EP 本でそれなりに提示はされる。最初の 3 学科(trivium)は直接に言語と関わるし、他の 4 学科(quadrivium)も言語と関わるテーマの下で EP 本で引き合いに出されはする。天文学としては **star, moon, sun, sky, cloud, rain, wind, etc.** の語との関わりから、また音楽の **music** は音声の **sound** という面から言語との接点は見られる。

中世の時代のこの liberal arts の 7 つの学問を学ぶことのできたのは自由人だけであり奴隷にはその機会がなかったが、英語での liberal, liberty, relief、さらには Basic 語 **love, level** など同系語(paronym)であり原義(root sense)はすべて「心が浮き、安定すること」である [本連載(40)の(1)でも扱っておいた]。なお、slave (奴隷) は中世にスラブ人(Slav)が奴隷の身となったことに由来し、「奴隷」の意味としては歴史が浅い語であることを英語史は教える。また、Basic 語 **art** は他の Basic 語 **harmony, arm, earth** などとも同系で、いずれも原義は「つながり結びつけられていること」である [中世の教養 7 科目に関するこのあたりの解説は同上拙著、第二部、例(31), (43), (71)参照]。

EP 本での背景に哲学としての「自由」(to be free)の概念も垣間見るが、free という語が幼児の言語習得(language acquisition)に関連し He is free to put new words together in new ways in talking a new language. (EP III, p.67) という文で初出となる。なお、**free** と **friend** (親しい間柄の人) は互いに同系(paronymic)の関係にある。

